

# 住まいに対する意識について

加茂 みどり  
Written by  
Midori Kamo

大阪ガス(株)エネルギー・  
文化研究所 研究員

今回の特集は、世代間の意識差に着目し調査結果を紹介するものであり、本稿では住まいに関する結果を報告することを目的としている。ただ、本調査においては一般的な住まいに対する意識について多く設問してはならず、限られたデータの紹介となることをご容赦いただきたい。

## ベランダについて

「A：共同住宅（マンションなど）であっても、子どもが外遊びできる位のベランダの広さを確保したい」または「B：住戸の価格や安全性を考えると、高層マンション等でベランダがないのはしかたがない」という考え方のどちらに近いかという設問では、全体では、Aに近い・ややAに近いを合わせると50・2%、Bの方は25%であった。世代・性別ごとにもみると、Aのポイントが50%を超えるのは、男性では60代のみであるのに対し、女性では20代と30代、特に20代の女性は約57%となっている。理由は設問にないため、今回の調査からはわ

からないが、「子どもが外遊びできる位の」という言葉が設問にあることを考えると、20代30代女性は小さな子どもをもつ母が多いことが関係している可能性がある。

## 居間の広さと個室数について

「A：個室の数が少なくても、広い居間が欲しい」または「B：各部屋が狭くなっても、家族人数に応じた個室数が必要である」という考え方のどちらに近いかという設問では、全体では、Aに近い・ややAに近いを合わせると42・9%、Bの方は37・2%であった。世代・性別ごとにもみると、男女ともに40代が他の世代に比べてAのポイントが低く、「どちらでもない」のポイントが高い傾向があり、居間の広さや個室数に比較的関心が低いといえる。Aのポイントが50%を超えるのは60代の女性のみで、やはり推測でしかないが、居間での滞在時間や居間での交流志向などが関係する可能性がある。またBのポイントが比較的高いのは、20代男性および60代男性であった。

## 各室の連続性

「A：子ども部屋と居間・台所などは、連続した一体的な空間がよい」または「B：各室はきちんと壁で区切られているのがよい」という考え方のどちらに近いかという設問では、全体では、Aに近い・ややAに近いを合わせると47・2%、Bの方は30・1%であった。世代・性別ごとにもみると、Aのポイントが50%を超えるのは50代女性と60代女性で、特に60代女性は59・4%となっている。またBのポイントが高いのは20代男性であり、前項の居間の広さと個室数に対する意識と同じ傾向があった。

## 居間の多機能化

「A：居間は接客、くつろぎ、食事の他、何でも用事が済むような多機能なものがよい」または「B：接客室や食事室など、機能別にそれぞれの部屋が欲しい」という考え方のどちらに近いかという設問では、全体では、Aに近い・



ややAに近いを合わせると62・5%、Bの方は22・2%であった。強いていえば比較的60代男女と20代男性はAのポイントが他より低くBのポイントが高いが、世代・性別ごとの差は小さい。

### 個室と外部の接続性

「A…玄関だけでなく、個室からも直接外に出られる方がよい」または「B…出入り口は玄関と勝手口以外に必要な」という考え方のどちらに近いかという設問では、全体では、Aに近い・ややAに近いを合わせると19・7%、Bの方は61・9%であった。世代・性別ごとに見ると、比較的Aのポイントが他の世代に比べ高いのは60代で、男女ともにほぼ3割となっている。Bのポイントが高いのは20代女性で、77・5%となっている。

### 仕事スペースの要否

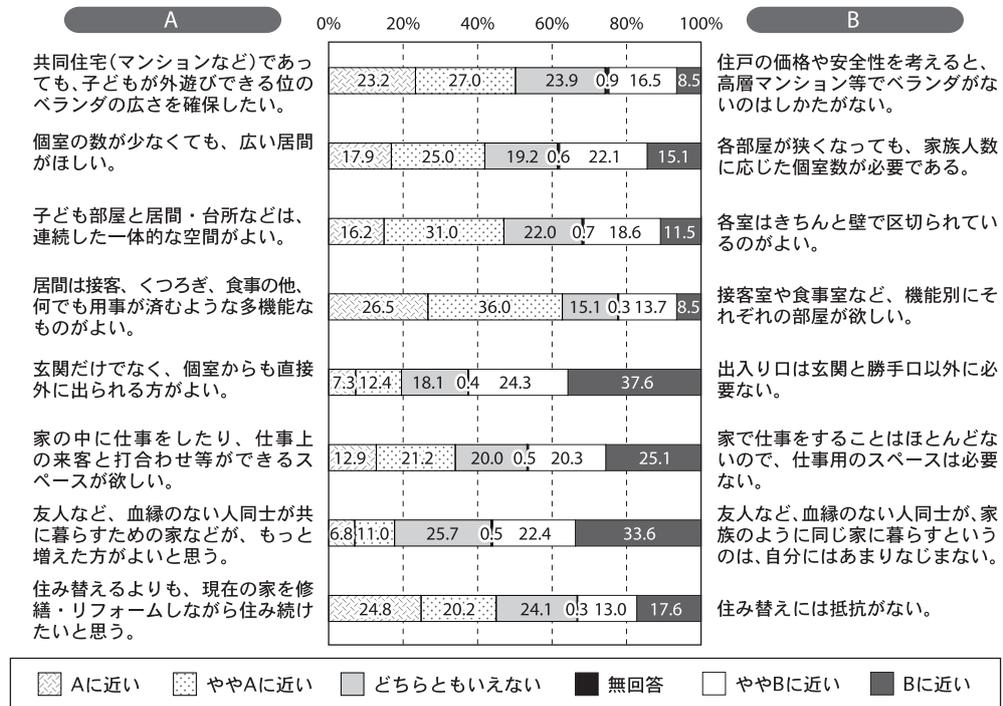
「A…家の中に仕事をしたり、仕事上の来客と打ち合わせ等ができるスペースが欲しい」または「B…家で仕事をする必要はない」という考え方のどちらに近いかという設問では、全体では、Aに近い・ややAに近いを合わせると34・1%、Bの方は45・4%であった。世代・性別ごとに見ると、AのポイントがBのポイントを上回るのは50代男性と60代男性で、特に50代ではAが45・2%となっている。

### 非血縁者の同居

「A…友人など、血縁のない人同士が共に暮らすための家などが、もつと増えた方がよいと思う」または「B…友人など、血縁のない人同士が、家族のように同じ家に暮らすというのは、自分にはあまりなじまない」という考え方のどちらに近いかという設問では、全体では、Aに近い・ややAに近いを合わせると17・8%、Bの方は56・0%であった。世代・性別ごとに見ると、Aのポイントが他の世代に比べ高いのは男女ともに20代で、特に男性は27・8%となっている。

### 居住の継続

「A…住み替えるよりも、現在の家を修繕・リフォームしながら住み続けたいと思う」または「B…その時のニーズに合った家があれば、住み替えには抵抗がない」という考え方のどちらに近いかという設問では、全体では、Aに近い・ややAに近いを合わせると45・0%、Bの方は30・6%であった。世代・性別ごとに見ると、Aのポイントが高いのは60代で、男性は64・



0%、女性は65・6%となっている。逆に20代は男女ともにBのポイントがAを上回り、男性44・5%、女性44・5%となっている。居住継続志向の60代と住み替えに抵抗のない20代の対比が鮮明となった。

総数 (n=1182)